

ある町の 天気相談所

Vol.101 2026.05.01

令和8年5月号



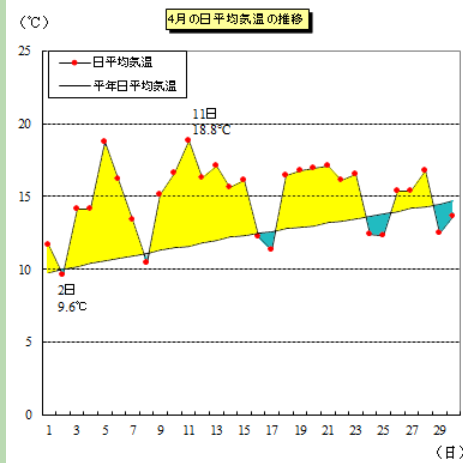
2026年のさくら

かみね公園のソメイヨシノは3月25日に開花、4月3日に満開となりました。平和通りは、ここ数年、木によって開花状況に差が大きくなっていましたが、今年はいつも以上に大きく感じられました。大煙突付近のオオシマザクラは4月12日頃は山肌を白くしていました(写真)。



4月の気候

4月は、高気圧や低気圧が交互に進み、周期的に天気が変わりました。気温は高くなりましたが、後半は変動も大きく、雨が降る日も多くなりました。気温は前半は高く、中旬以降は変動も大きくなりましたが、月平均気温は14.9度と平年よりかなり高くなりました。雨の降る日も多く、降水量は113.5ミリと平年の91パーセント。日照時間は153.8時間と平年の84パーセントと、ともに平年より少なくなりました。



一ヶ月予報 (気象庁発表)

天気は数日の周期で変わり平年と同様に晴れの日が多く、暖かい空気に覆われやすい予想です。平均気温は「高い」、降水量は「ほぼ平年並」、日照時間は、「ほぼ平年並み」となる見込みです。

春先の熱中症

熱中症というと真夏を思い浮かべると思いますが、実際、熱中症にかかる人数は7月8月が最も多くなっています。5月というと、まだ熱中症というイメージは少ないかと思いますが、熱中症にかかり緊急搬送される方が出てくる時期でもあります。

熱中症とは、暑い環境にいてことで体温が上昇し、重要な臓器が高温にさらされることよって起きる障害の総称で、人間の体は体温を一定に保つ機能が、熱を作っています。一方、暑い環境では体温が上昇しすぎないように体外に熱を放出しますが、暑いため、熱を下げるができなくなると、体内に熱が溜まってしまいうことで起こります。

春の時期は、体が熱を放出する仕組みが夏ほど働かないことが多く、屋外での活動も多いですが、快適に過ごせることも多いため、あまり警戒されていません。ですが、気圧配置によっては、真夏日になったり、雪が降りそうな気温になるなど、気温の変化が大きい時期でもあります。

暑くなる日は熱中症に気をつけなければなりません。本格的な夏に備えて、体を熱さになれるようにしておくのも、この時期は重要なこととなります。少しずつ汗をかきような運動をするだけでも、暑さに備えることができます。

天気用語の基礎知識

5月からの警報 (開始日)

5月29日金曜日から新たな防災気象情報が運用を開始する。名称に警戒レベルをつけたものになるのは「河川氾濫」「大雨」「土砂災害」「高潮」。その他にも線状降水帯の発生を知らせていた「顕著な大雨に関する気象情報」は「気象防災速報(線状降水帯発生)」となるなど、気象情報も「気象防災速報」「気象解説情報」に整理される。これらの変更に伴い、気象庁ホームページであらたに追加される情報等もあり、前日の28日からはシステムの変更作業が行われる。

・・・神峰の山から・・・

夜に市役所駐車場にいと、カエルの鳴き声が聞こえてきました。前日の雨により市役所北側にある雨水の調整池に水がたまり、そこで鳴いているようでした。家の近くの田んぼでも田植えの前に水が入ると、カエルの鳴き声が聞こえてきます。いつも疑問に思っているのですが、水が入る前は表面は乾燥した状態が数ヶ月続くことがあります。カエルは土の中にいて耐えているのでしょうか、それとも近くの川などから移動してくるのでしょうか、はたまた両方なのでしょうか。

近づいていくと鳴き声のとまるのも、なんだか不思議な気持ちで聞いています、